

事業報告書

令和元年度



公益財団法人 紫雲会

横浜市緑区生活支援センター

令和元年度 緑区生活支援センター事業報告書

生活支援拠点の整備や精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を推進していく流れの中、生活支援センターにおいても設置から20年の経過を踏まえ、必要とされる機能や運営のあり方についての検討を続けてきました。今年度は標準化に向けて2年目となるモデル事業を実施し、「A型とB型のサービス提供体制の区間格差是正」「相談支援体制の拡充」について更なる検証を行いました。その結果、次年度には長年の懸案事項であった18区の生活支援センターにおける「標準化」が実現する運びとなりました。今回のこの運営体制の再整備をしっかりと業務に活かして、今まで以上に地域における精神保健福祉活動の中核としての役割を担っていくことが出来るよう努力していきたいと考えます。

また、今年度は生活支援センターが主導して、緑区自立支援協議会に「精神部会」を立ち上げました。緑区は「精神科の有床病院が無い」という地域特性があります。そこで精神部会では、精神科医療機関に長期入院となっている方に対して「如何に退院支援を進めるか」と、またそれを「地域で受け止めていくには」について、「自分ごととしての意識を持つこと」をテーマにした取り組みを進めました。

精神部会はスタートしたばかりではありますが、今後緑区において区福祉保健センター、基幹相談支援センター、地域ケアプラザなど各関係機関との協働体制を更に強化し、地域移行の啓発推進、医療との連携強化、困難ケースの受け入れやアウトリーチ支援の体制作りなどに取り組みながら、誰もが安心して暮らすことができる地域づくりに繋がる活動を継続して発信していきたいと考えます。

【事業実施内容】

1. 指定特定・指定一般相談支援事業

計画相談支援については、地域において本人の希望する生活を実現するための総合的な支援を継続して実施していくことを目的とします。単にサービス利用を目的とした関わりではなく、本人を取り巻く関係機関との連絡調整や家族調整など、包括的に支援します。状況に応じた対応が不可欠なためモニタリングは重要と考えます。また、地域において相談支援事業所が増えてきている状況の中、家族ぐるみの支援が必要なケースや対応に苦慮するケース、病状が安定せず緊急対応を余儀なくされるケース、また触法ケースなど、いわゆる困難ケースに対する支援については生活支援センターが特に対象とするケースと考えており、意識的に支援を実施しています。

また、支援の質を担保するためにも、区自立支援協議会の相談部会、横浜市や各団体主催の研修等の参加を推奨し、相談支援専門員の知識や支援スキルの向上を図ると共に、対象者の支援方針、支援計画の立て方や方向性についても職員間で共有し意見交換することや、職場内において先輩職員から経験の浅い職員に対してのスーパーバイズのを積極的に設ける等、支援する側が孤立する事の無いよう配慮しました。

【元年度実績】

計画相談支援 55件、相談中のケース 2件、地域移行支援 3件（内1件退院）、自立生活援助 2件

2. 地域活動支援センター事業

(1) 相談支援

本人のニーズに基づき、「本人が出来る事」「支援センターで出来る事」「必要な支援」等々を十分検討した上で適切な社会資源に繋げる事や、地域や関係機関のネットワークの中で支援していくことの重要性を職員全員で常に共有しながら、相談の主体は本人であることを意識して個別の相談支援を実施しました。

今年度生活支援センターに繋がったケースの相談経路では、地域ケアプラザや民生委員からの相談が多かったことが特徴的でした。相談されたケースに対して協働して「まずは動く」ということを通して、お互いの専門性を活かし、支援において補完し合える関係性を築くことができたと感じます。地域の窓口と

も言える地域ケアプラザとの関わりは潜在的な当事者の掘り起こしにも繋がり、また高齢分野との協働は、今後の地域における相談支援体制の構築において欠かすことの出来ない連携と考えます。今年度密に関わった地域ケアプラザや民生委員との繋がりを基に、今後も地域の中での連携体制を強化し、障害や高齢などの分野を超えた相談支援体制を構築していきたいと考えます。

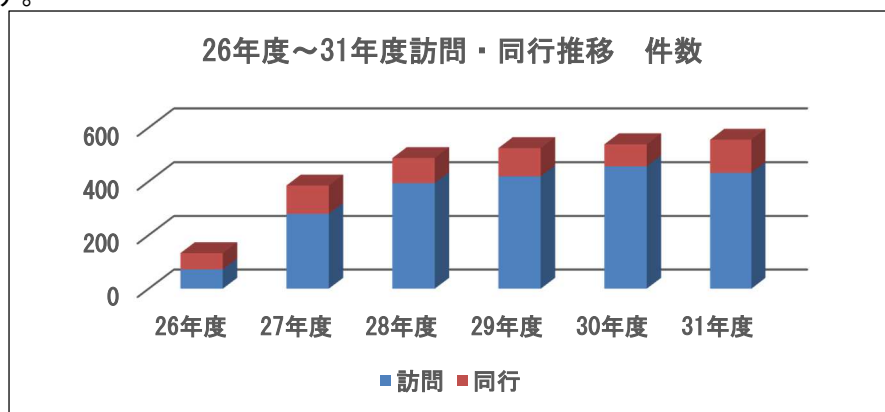
(2) 訪問・同行

センター利用者への定期的な訪問に加え、不穏時の訪問や緊急時の通院同行、緊急入院対応などを実施しました。また、こちらから出向いていくことで、困っていることを発信できない人、支援が届いていない「未治療・治療中断者」や「ひきこもり」といった人の掘り起こしを行い、関わるきっかけを作っています。

実際に、「家族が抱え込んでしまっている」と地域活動支援センターより相談があり、定期的な訪問を1年半続けて関係性を築き、今年度何とか医療に繋げることが出来たケースがありました。また、地域ケアプラザや民生委員、また医療機関などからの情報提供や依頼により、「通院中断」「ゴミ屋敷」などの状況の方への訪問支援を協働して実施することもできました。

この様な実践から、地域からの相談や情報提供に対し、「動く」ことで、当事者にとって生活支援センターが社会との接点になるよう今後も地域との連携を深めていきたいと考えます。

また特定の利用者に対し、怒りやパニックによる不穏時の緊急対応を行ってきました。利用者の要望に即応じるだけでなく、まずは電話にて状況把握や気持ちの整理を行うなど、必要に応じた対応も実施してきました。緊急性を訴える連絡は続いています、「電話相談での対応のみ」「後日に訪問日を設定する」など、状況は変化してきています。



(3) 家族支援

緑区家族会、役員会の会場提供と定例会へのオブザーバー参加を引続き行い、安心して家族が参加できるようなバックアップを行ないました。令和元年度は家族会に参加している家族の子どもが定期的な面談につながり、家族会を通した本人への支援につながり、家族会の方々とより良い関係を作ることができました。

個別支援では、本人と同居している高齢の親に対して、親と一緒に地域ケアプラザへ相談に行き、今後の本人の生活について高齢分野である地域ケアプラザの職員との相談関係をつくる調整を行ないました。

発症後間もないご家族に向けては、区福祉保健センターと共催で「家族教室」を開催し、情報提供と共に他のご家族との交流の機会を設けました。

＊みどり会定例会・役員会 各2か月に1回開催

＊みどり会新年会 センター昼食会と同時開催し、ご家族10名の参加を含む合計25名参加

＊家族教室 対象：発症後間もないご家族（統合失調症と診断された方のご家族）

内容：講義による情報提供（統合失調症、制度、資源）と、みどり会定例会への参加

参加：7家族（プラス家族会から7家族参加）

(4) 当事者活動支援

支援センターのプログラム実施においては、「利用者と一緒に作っていくこと」を念頭に、利用者の意見を取り入れることを意識しています。

「手芸プログラム」においては、作品作りをスタッフが主動するのではなく、利用者同士で教え合いながら進め、また作成する作品内容やプログラムの開催日時についても、利用者と一緒に考えて決めています。

また、地域での普及啓発講座や研修会実施の際には「当事者の体験談発表」の機会を積極的に作りました。講座参加者にとっては当事者からの体験談は最も伝わりやすく心に響くものであり、また発表した当事者からも「自信に繋がる良い機会になった」との感想がありました。

生活支援センター連絡会で「ピアを考える会 アンケート結果報告会」で発表をしました。その後話し合いの場を持つなどして、生活支援センター全体で当事者との交流を深める初めての機会となりました。

- * 「手芸サークル」年 12 回開催 68 名参加
- * 「支援センター連絡会 ピアを考える会」 5 回実施
- * 「ピアを考える会 アンケート結果報告会」45 名参加（当事者 36 名、スタッフ 9 名）

(5) 地域交流・地域連携

【緑区自立支援協議会での取り組み】

○事務局運営

緑区自立支援協議会においては、事務局として企画運営に携わっています。今年度は、年度初に示されたガイドラインに沿った体制作りを行い、組織体制の見直しや、新たな部会の創設などを手掛けました。これまで生活支援センターが事務局となって行ってきた「支援者の困り事の共有」や「地域課題の抽出」については相談支援部会にて実施し、引き続き地域の事業所に対してのサポート体制を整えました。

○精神部会

生活支援センターが中心となり「精神医療について理解を深め、みんなで支える地域を作る」を目標に、精神部会を新たに創設し、地域づくりへの様々な提案と発信を行いました。

○グループホーム連絡会、研修など

グループホーム連絡会では区内事業所と協働して企画・運営を行い、3 か所のグループホーム見学を実施しています。また、社会情勢や地域の支援者の関心が高かった「ひきこもりの支援の実際」について、北部ユースプラザに協力を仰ぎ研修会を実施しました。

【地域ケアプラザでの交流会】

○中山地域ケアプラザ主催「民生委員・児童委員とケアマネージャーの交流会」の参加

今年度より就任した民生委員・児童委員に対し、ケアマネージャー、自治会と一緒にそれぞれの役割を伝える交流会を企画しました。3 月に実施予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、中止となってしまいました。来年度に仕切り直し、再度実施をする予定です。

【その他】

○地域においては、合築施設の特性を活かし 3 障害合同のお祭り（秋のコスモスフェスタ）の実施や施設開放を通して、他障害関係機関や地域の色々な施設の協力により地域市民との交流を図りました。町内会主催の祭事等への参加や、社会福祉協議会主催の災害時想定連絡用回覧板の取り組み等にも積極的に参加し、地域の中での顔の見える関係作りを心掛けています。

(6) 自主事業

※詳細については【資料 3】参照

行事、プログラムの実施について業務のあり方の見直しと共に精査を重ねた結果、緑区の地域性を鑑み

たプログラム（蛍鑑賞会等）や、地域全体で合同実施する行事（納涼会、クリスマス会、バスハイク）など、緑区の特性を活かした中で支援や本人の生活拡大に繋がる様な自主事業を積極的に実施しました。

【今年度新規に立ち上げたプログラム】

今年から生活支援センター単独でのソフトボールを立ち上げました。大会（フレンドシップ杯）に向けて話し合いを重ねてチーム作りをしました。生活の幅を広げる事を目的に「余暇支援」を実施し、実際に参加者が自宅で調理が出来る「ささっと作るお昼ご飯」を実施しました。

（7）情報提供

法制度の情報や必要な種々の社会資源の情報（GH 募集情報、就労関係、企画イベント）等、適宜様々な方法（センター便り、ホームページ、館内掲示、ブックラック等）を用いて利用者やご家族、関係機関等に提供しました。より見やすい館内整備の工夫を心がけることや、情報提供の重要なツールであるホームページでは、その中のブログ機能を活用しタイムリーな情報発信をすることができています。

（8）その他

利用者アンケート、メンバーとの意見交換、意見箱及び利用者から寄せられた直接的な意見や質問等について職員ミーティング、職員全体会議において協議し、早急に対応すると共に、掲示や個別の対応、説明等により利用者に向けて回答し内容等を周知しました。

3. 退院サポート事業

※統計については【資料2】参照

今年度は14名の「個別支援」を実施し、利用者の希望する生活を目指しました。そして、地域支援者と連携をして、退院後も支援を途切れさせない関わりを実践し、地域定着への視点を意識した支援も実施しました。ケースによっては「退院の可能性を探る支援」「早期退院への支援」など、関わり方の難しいケースもありましたが、支援出来る体制を整備し、新規依頼を断わることなく事業を実施することが出来ました。

また担当病院に対し、事業周知のため、地域と医療の現状を共有し、地域づくりを意識した「協働活動」を実施しました。それぞれの役割を通し、退院サポート事業だけの連携ではなく、生活支援センターや地域支援者との連携の必要性を感じ、自立支援協議会「精神部会」など地域にも繋げることもできました。

また、緑区における「地域精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の「協議の場」の実施を目指した自立支援協議会「精神部会」を開催しました。（※【その他】1. 緑区自立支援協議会「精神部会」参照）

<主な活動>

①退院サポート事業「研修部会」の担当としての活動（※新型コロナウイルスの影響で延期）

1. 「地域移行・地域定着支援検討会／精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム モデル区報告会」

局と研修部会が中心となり「地域づくり」についての検討会を企画しました。

2. 「改めて…“住まい”について考える研修」

神奈川県生活訓練施設連絡会と共催し、“住まい”について考える研修を企画しました。

②緑区生活支援課に向けた事業周知

健康福祉局主導のもと、「生活支援課が抱える長期入院患者」など事業利用者の掘り起こしを目的として、緑区生活支援課の定例会議へ参加しました。現状の個別支援状況を共有し、支援の検討もできました。

③基幹相談支援センター等との協働活動

1. 基幹相談支援センター「北部ブロック地域移行担当者会議」へ参加
2. 都筑区自立支援協議会「精神部会」へ参加

4. 自立生活アシスタント事業

※統計については【資料2】参照

令和元年度は3名の方が自立生活アシスタント事業を目的達成などの理由で終了となり、新たに4名の方の新規登録をしました。退院サポート事業利用者が退院となり、地域生活が始まった方には退院サポート事業担当者と一緒に自宅に訪問をし、本人の安定した地域生活のために切れ目のない支援を行いました。

「8050問題」といわれる高齢の家族と同居しているケースでは、本人への支援は当然のことながら、同居している家族とも関わりを持ち、本人と家族両方の今後の生活における不安や困り事などを受け止め、親亡き後の本人の生活について関係機関を交えて検討する支援会議を行ないました。特に区障害支援課担当との連携は重要であり、区役所に本人と一緒にいき、区障害支援課担当との面談を設定し、現状の共有や親亡き後における課題などについて話合う場を設定しました。

体調が不安定になりやすい方には、日ごろから医療機関との連携を密に行い、緊急対応として入院を視野に入れた対応を行ない、また日常の体験の幅が狭い方に対しては、外出同行や買物同行などを行ない、体験の獲得として余暇支援を重視しました。

アシスタント委員に30年度から引き続き担当をさせて頂き、北部ブロック会議では、自立生アシスタントの強みや自立生活援助との比較などを話し合いました。自立生活援助の利用対象者は、「支援期間が標準1年間」、「手帳など障害者であることの確認が必要」などの枠があります。そのため、やはり課題が多くあるためある程度の支援期間が必要な方や、関係性を作ることが難しい方などに対しては、自立生活アシスタントによる支援の方が導入しやすいという意見としてまとめました。

【普及・啓発活動】

精神の障害に対する偏見や差別はまだまだ根強く、その為地域での生活に支障があると感じている当事者・ご家族は多いのが現状です。当センターの責務として、地域に対する「普及・啓発活動」は必須であり、継続して実施していく必要があると考えています。

《講習会・研修会・相談会の開催》

①「家族教室」（区福祉保健センターと協働開催）

対象：発症後間もない（5年未満）精神障害者の家族

内容：統合失調症について、制度、リハビリ、家族対応、社会資源、みどり会定例会参加

参加：7家族（プラスみどり会の方7家族）

②「地域の支援者、市民向けの研修会、勉強会」（複数個所で実施）

対象：居宅介護事業所の職員、地域ケアプラザ職員、高齢者施設職員、市民の方等

内容：生活支援センターの紹介、精神障害の理解とその対応について、当事者発表等

③「精神科医療機関における講座、当事者活動との協働」 ※詳細は【資料2】参照

地域移行地域定着支援事業と絡めて、医療機関や入院中の患者への普及啓発活動実施

④その他以下の地域で開催されている定例会議等にオブザーバーとして参加

「第一団地情報支援会」・「個別レベル地域ケア会議」・「包括レベル地域ケア会議」・「民生委員児童委員・介護支援専門員情報交換会」等

参加者：町内会役員、民生委員、ケアプラザ職員、区福祉保健センター高齢担当等

《市民向けのイベントへの参加》

①「緑区役所障害者週間イベントでのパネル展示」 生活支援センターの紹介と利用者の作品展示

1. 緑区自立支援協議会「精神部会」の立ち上げ

今年度、自立支援協議会の専門部会として「精神部会」を立ち上げました。「精神医療について理解を深め、みんなで支える地域をつくる」を目標とし、現場での悩みや関わり方の難しさなどの共有、地域で考える課題の抽出などを行いました。精神分野への理解促進、具体的な支援を通し支援者の役割や課題を考える、実際の現場を知ることなど、よりよい支援に繋がる機会となりました。

《活動内容》

- ・第1回「精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの説明、精神科医療機関を知る」

講師：精神科病院 医療相談室ワーカー

参加者：25名（うち、2か所の地域ケアプラザ参加あり）

- ・第2回「アウトリーチを通して考える“精神障害者への支援や関わり方”」

講師：精神科病院 訪問看護 PSW / 居宅介護支援事業所 ヘルパー

参加者：27名（うち、3か所の地域ケアプラザ参加あり）

- ・第3回「精神科病院見学」

参加者：24名（うち、1か所の地域ケアプラザ参加あり）

2. 職員資質の向上・人材育成

より質の高い支援の提供を目的に、外部研修への参加奨励、支援センター内部での職員研修会等を実施し、人材育成の一環として職員の資質と知識の向上や対人援助職としてのメンタルケアやモチベーションの維持に努めました。また、研修会での講師やインストラクター等について外部から依頼を頂いた際には、双方の人材育成の視点から、積極的に参画しました。

《支援センターで実施の職員研修、勉強会等》

- * 「意思決定支援・権利擁護・障がい者虐待防止法について」
- * 個人情報保護研修「個人情報の漏えい防止」
- * 紫雲会横浜病院研修「病院の機構と組織を学ぶ」
- * 人間関係の境界線「利用者との適切な距離の取り方」
- * 相談支援研修Ⅲ伝達研修「個別支援会議の位置づけ、開催者・参加者の役割、必要な準備等の確認」
- * 支援困難事例について、職員会議、職員ミーティング等においての「事例検討」実施

3. 実習生の受入れ

将来の福祉の現場を担う新人育成の一環として、実習希望の学生の受け入れを積極的に実施しました。さらに、今年度は担当者間で、精神保健福祉士を目指す学生の受け入れに力を入れていく目標を立て、実習受け入れの年間スケジュールを作成した上で、受け入れ体制や職員役割分担などの整理を行いました。件数を受けるだけでなく、実習生1人1人に合わせた活動内容、振り返りの場の設定など、実習生にとって充実した内容になるように心がけてきました。

※受入れ実習生：精神保健福祉士養成課程、看護師養成課程、横浜市新人職員、韓国国際交流職員実習等
人数：20名 のべ実習日数：65日

4. 衛生管理

年2回、清掃業者による館内全体の清掃、及び月4回近隣地域作業所による清掃（委託）、毎月1回調理器具の消毒、漂白やシーツ類の洗濯を行い衛生管理に努めました。特に調理室の衛生や調理に使用する布巾、タオル等については食中毒防止の観点からも清潔を保つよう徹底しました。またノロウィルス等の対

策として、さらに今年度末の新型コロナウイルスの対策として、手洗いの推進、受付入口カウンターに手指の消毒液を設置、夕食サービス終了後に調理室・食堂のテーブル、手すりや椅子等の消毒を念入りに実施しました。また汚物処理方法のマニュアルを職員で共有するなどの予防に努めました。

5. 安全管理・災害対策

安全管理に関しては、利用者個々の日々の様子を意識し、不穏時、緊急時の対策等について日頃の職員ミーティングや職員全体会議に於いて検討、対応策を講じました。

災害対策は、緑区役所との「福祉避難場所に協力する協定」に基づき、万一の災害時対策として、災害備品（発電機、ソーチライト等の照明機器、ラジオ、懐中電灯等）と災害用備蓄品を整備し、使用方法等職員全体で確認する等、避難所としての整備を固めました。

合築の地域活動ホームとは年2回の「合同避難訓練」の実施を行い、災害時や不穏者への対応方法の共有や、双方の事業所の早朝・夜間勤務体制、緊急時連絡体制の確認等を行いました。また、有事に備えての「福祉避難場所連絡会」に参加して、緑区高齢障害支援課、総務課の担当者と水害の対策などの話し合いを実施するなど、利用者が安心して支援センターを利用して頂けるよう、合築の建物全体の問題として安全管理・災害対策に取り組みました。

また緑区社協役員会、定例会では、大規模災害時を想定した訓練の一環として「緑区内災害緊急時連絡用回覧板」の取り組みを継続的に実施しており、地域の横の繋がりと近隣施設との顔の見える関係作りに繋がりました。また中山町地域防災訓練の参加では、地域での有事における連携体制の確認をするなど、大規模災害時など、万一に備えて具体的な備えをすると共に、地域や近隣福祉施設との連携の強化に繋がりました。

【利 用 実 績】

【資料1】

1. 令和元年度 緑区生活支援センター 年間運営状況

※（）内…昨年度実績

開所日数		318 日	
登録者数	令和元年度登録	34 (37) 名	
	全登録者数	1270 (1236) 名	
利用者数	本人	3694 (3864) 名	11.6 (11.0) 名/日
	家族	319 (271) 名	1.0 (0.8) 名/日
	ボランティア・関係機関	213 (207) 名	0.7 (0.6) 名/日
相談支援	電話相談	6593 (7495) 件	20.7 (21.2) 件/日
	面接相談	759 (760) 件	2.4 (2.1) 件/日
	訪問・同行	608 (558) 件	1.9 (1.6) 件/日
	非構造面接	298 (472) 件	0.9 (1.3) 件/日
	嘱託医相談 40 回実施	13 (20) 件	0.3 (0.5) 件/回
	心理士相談 45 回実施	48 (35) 件	1.1 (0.7) 件/回
各種サービス	夕食サービス・週3回提供	1271 (1386) 名	8.4 (9.6) 名/日
	入浴サービス	375 (213) 名	31.2 (17.8) 名/月
	洗濯サービス	325 (153) 名	27.0 (12.8) 名/月
	インターネットサービス	24 (75) 名	0.1 (0.2) 名/日

2. 退院サポート事業 年間実績

元年度 個別支援者数 (退サポ：14 名 地域移行支援：3 名)						
退院 サポート 事業	支援継続	10 名	退院者	2 名	アパート設定	2 名
	退院後フォロー	3 名			自宅	0 名
	相談中	1 名			GH	0 名
	支援終了	1 名			生活訓練施設	0 名
	(支援センター支援へ移行 1 名)					
地域移行支援		退院のため支援終了	1 名			
元年度 啓発活動 (計 16 回)						
病院		・ 患者対象：12 回 ・ 院内職員対象：3 回				
関係機関・地域		・ 関係機関：1 回				

《普及・啓発活動》

- * 「あさひの丘病院 キャラバン隊かめ 病棟訪問」患者、病院職員対象：10回
- * 「あさひの丘病院 未来クラブ」患者、病院職員対象：2回
- * 「カメラアホスピタル」退院サポート事業説明 病院職員対象：1回
- * 「ほうゆう病院」退院サポート事業説明 病院職員対象：1回
- * 「元気会横浜病院」退院サポート事業説明 病院職員対象：1回
- * 「緑区生活支援課」退院サポート事業説明 生活支援課職員対象：1回

＜新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて令和2年度に延期になった活動＞

- * 「退院サポート事業検討会」職員対象：年1回
- * 「神奈川県生訓連絡会・横浜市退院サポート事業共済研修会：年1回」

3. 自立生活アシスタント事業 年間実績

※ () 内…昨年度実績

元年度支援者数		登録者	15 (18) 名	相談中	10 (12) 名	
支援内容	面接	26 (43) 回	心理情緒	368 (465) 回	衣食住	209 (274) 回
	訪問	139 (162) 回	医療健康	319 (464) 回	対人	141 (257) 回
	同行	32 (28) 回	消費生活	138 (175) 回	就労	66 (106) 回
	ケア会議	7 (12) 回	関係機関との連携	41 (43) 回	余暇	9 (11) 回

令和元年度 緑区生活支援センター自主事業報告

回数	プログラム名	内容	場所	参加人数
10 回	昼食会	昼食食、家族会の新年会	支援センター	46
3 回	スポーツ根性クラブ	ソフトバレーボール	緑スポーツセンター	10
12 回	手芸サークル	ミーティング、作品の作成	支援センター	68
9 回	余暇支援	クイズ大会、盆踊り	支援センター	34
5 回	たこ焼会	たこ焼きを焼きながら交流	支援センター	27
3 回	緑菜園	芋掘りと大豆の収穫	緑区市民菜園	9
2 回	バスハイクミーティング	場所決め、行程説明等	支援センター	9
11 回	センターソフトボール	練習&試合	白山ハイテクパーク	105
1 回	ソフトボールミーティング	祝賀会、ミーティング	支援センター	11
8 回	ささっとつくるお昼ご飯	実践できるメニュー作り	支援センター	44
40 回	嘱託医相談	精神科医師による相談会	相談室	13
45 回	心理士相談	心理士による相談会	相談室	48

【季節の行事】

月	プログラム名	内容	場所	参加人数
6 月	春のバスハイク（区内合同）	バーベキュー	なみのこ村	24
6 月	蛍観賞会	夜間に蛍観賞	四季の森公園	9
8 月	緑区合同納涼会	流しそうめん・BBQ	支援センター	51
11 月	秋のバスハイク	観光	横須賀美術館、ルビーの丘	26
12 月	緑区地域合同クリスマス会	ビンゴ大会、コンサート等	支援センター	89
1 月	初詣	神社へ初詣	杉山神社	6
2 月	節分	豆まき	支援センター	6
3 月	ひな祭り	ひな人形飾り作り	支援センター	3

【地域交流】

回数	プログラム名	内容	場所	参加人数
1 回	みどりコスモスフェスタ	地域祭り&施設開放	支援センター・地活全館	450
2 回	あおぞら合同防災訓練	避難訓練・消火器訓練	支援センター・地活全館	110
1 回	中山町地域防災訓練防災訓練	避難訓練・AED 訓練・放水訓練・給水タンク確認など	中山小学校	1
1 回	フレンドシップ杯	ソフトボール大会	保土ヶ谷公園少年野球場	18

【地域支援事業・地域普及啓発事業・その他】

回数	プログラム名	内容	場所	参加人数
4 回	出張個別相談会	地域の方に向けて相談会	東本郷ケアプラザ	4
2 回	家族教室（初発の家族対象）	障害理解と家族の対応	区役所	36
12 回	家族会定例会・役員会	オブザーバー参加	地域交流室	103